

## 令和4年度 村長と語り合うタウンミーティング（舟石川地区）実施報告書

### 1, 開催概要

日時：第1回 令和5年2月11日（土）14：00～16：00

第2回 令和5年2月26日（日）14：00～16：00

会場：舟石川コミュニティセンター会議室

参加者：第1回 11名（2名欠席），第2回 8名（5名欠席）

ファシリテーター：伊藤 史紀氏（株式会社 Co-Lab）

堀田 誉氏（同上）※第1回のみ

### 2, 第1回議事概要（◇=参加者発言，◆=村長発言）

#### 村長から話題提供

#### 村長からの話を受けて、思ったこと・感じたこと（グループワーク）

ABCの3つのグループにわかれ対話し、グループごとに意見を取りまとめ、1つずつ発表した。

#### 【Bグループ】

◇実際に原子力事故が起きたときに、具体的にどうすればいいのか。

◆原子力災害の対応だが、昨年も訓練を行った。避難計画の案はできているが、内容を伝えきれていない。村だけではなく、国や県の対応の関わりもあり、まだできていないが、早く避難計画を作って示したい。案を作って、訓練をして直そうと思ったところは、計画自体の手直しは少ないと思うが、改めて避難の仕方や情報提供を早くやりたいと思っている。

#### 【Cグループ】

◇原子力については懇談会を開催されているようだが、初めて聞いた。どんな人が参加しているのか。技術面、社会面の両面からどんな話をしているのか、きちんと議論されているのかなと思った。また、資料では、原子力の収入が数値で出ていたが、これは出していった方がよいのではないかと思った。福祉に力を入れていくということとデジタル化を進めることは相反すると思う。

◆原子力安全対策懇談会の委員は15名。大学教授やエンジニア、公募の方がいるし、女性もいる。事業者の事業や村の避難計画等について説明している。電源立地地域対策交付金は説明したが、固定資産税は溶け込んでおり、皆さんの共通的なところに活用しているのご理解いただきたい。また、福祉はリアルが大切だが、職員は業務増加もあり、職員のデジタル化、効率化を進めることで、丁寧な福祉サービスを行っていききたい。

#### 【Aグループ】

◇資料を見て、持続可能な社会は大切だと思った。ただ、資料的に気になったのは、省エネとか再エネとか言っているが、原子力のポテンシャルは排熱等もあるのではないかということ。また、原子力に対するプライドと言っているが、プライドにこだわり過ぎて、世界にその間に抜かれてしまっているのではないか。もう少し頑張って追いつくようにしませんかとの意見が出た。

◆エネルギー利用については、水素等もあり、排熱等を利用して、他のサイトに転用している地域もあるが、それは原子力発電所がある程度認知され、理解された上での次のステップになる。今私が「プライド」と言っているのは、村は色々なことがあったが、それを乗り越えてきた。そして原

子力と共に歩んできたが、今は、原子力を言葉に出すと皆さんが嫌がるような感じになっていて、それは、福島事故があり当然かもしれないが、原子力発電所が以前より危険なものとして捉えられている。ある程度時間をかけて、皆さんの原子力に対する忌避感みたいなものが下がってくれば、もう少し変わってくると思うが、今、そこを前に出すと村が二分されてしまうような気がしている。「賛成だ」「反対だ」という人がぶつかるような気がする。それを少しずつ、皆さんの気持ちが激しくならないように対話等を重ねて、それから、今後どうしますか、と冷静にやりたいと思っている。まどろっこしいと思うかもしれないが、丁寧にやっていきたい。

#### 村長に質問したいこと、対話したいこと（グループワーク）

ABCの3つのグループにわかれ対話し、グループごとに意見を取りまとめ、1つずつ発表した。

##### 【Bグループ】

◇国も原子力政策に前向きだ。革新炉もリードしてほしい。村に技術者が集まり、インフラも使える、有効な政策だと思う。

◆革新炉は、国でも議論されている。研究段階だが、相当時間がかかるだろう。誘致は別だが、研究開発拠点があるので、当然、村は研究面でリードしていきたい。研究開発は止めてはいけないので、人材や設備がそろっている東海村や大洗町で研究してほしい。

##### 【Cグループ】

◇空家が目立っている。空家バンクがあるが、活用されていないように思う。

◆東海村では220件ほどの空家と、その所有者は把握している。所有者が分からないと「特定空き家」になってしまうので、そうならないようにしている。村は空家リフォーム等の補助金を今年度から出しており、弁護士や専門機関とも情報は共有しているが、まだやり始めたばかり。成果は出ていないが、流通ベースに乗せたいと思っている。

##### 【Aグループ】

◇自転車専用道路とか交通の計画について教えてもらいたい。

◆自転車専用道路をつくる計画は、今はない。茨城交通の路線も以前はあったが、今は駅の西側にはない。住民も結局あまり乗らなかった。デマンドタクシーはキャンセルが多いことと、どうしてもタクシーと競合してしまうところがある。「公共交通会議」で、どういうものがよいか協議を行っている。私は、来年度からまずは、歩けるようなまちにしていこう必要があると思っています。自転車専用道路も含めて課題だと認識している。

### 3、第2回議事概要（◇＝参加者発言、◆＝村長発言）

#### 村長に質問したいこと、対話したいこと（グループワーク）

BCの2つのグループにわかれ、第1回のタウンミーティングを振り返った後、意見交換し、グループごとに意見を取りまとめ、1つずつ発表した。

##### 【Cグループ】

◇まちづくりについて、防災や福祉ほどの市町村でも行っているが、東海村の一番の「押し」ポイントは何か。

◆教育だと思っている。小学校1・2年生で30人学級をやっているのは、茨城県では東海村だけだ。そのため、村が直接教員を雇っている。スタディサポーターや図書館指導員等も雇用して、学校に配置している。これらは人件費なので、継続することは実は大変なこと。施設が立派なこともあるが、（施設以外の）内面もできていると思っている。

◇中学校進学時に村外へ進学する人は少ないのか。

◆今の一つの課題は、県が中高一貫教育を始めたことだと思っている。今までも私立に行く人はいたが、県立で中高一貫教育が行われるようになってきた。公立で選択肢が増えるのはいいが、村で小学校6年間、中学校3年間の9年間は育てたいと思っており、そこが課題だと思っている。

### （個人と村長の対話）

◇原子力発電所の再稼働をしようとしていると思うが、長時間運転することに伴い、突然壊れることも心配だ。溶接するにしても建設当時の技術でやっている。車ならその場で止めることもできるが、原子力発電所はそうはいかないと思う。そこがとても気になる。

◆エンジニアの方は心配していることだ。原子力規制委員会でも意見が分かれている。最終的には原子力規制委員会が判断するが、全ての国民が納得できなくとも、ある程度のところまでの理解は必要だと思っている。正直、村のレベルでは技術的な安全性の検証まではできていない。人任せのようになってしまうが、今後の議論の行方と国民理解を見ていきたい。

◇村の財政について、税収が50億円ほど増えたら村は何をするか。というのは、今、東海第二発電所の防潮堤の工事を行っている。固定資産なので額は減ってはいくと思うが、どうするか知りたい。

◆防潮堤の安全対策工事は、（固定資産税として村に）まとまったお金が入ってくる。現時点でその用途を決めている訳ではないが、防災対策で何か必要だと思っている。防災無線と戸別受信機をデジタル化しなければならない。避難所整備も必要だが、村からの情報が住民の皆さんにどう届くかが大事だ。その上で余裕があれば、教育や保育の支援をしたいと思う。経済的に苦勞している人の支援をしていきたい。

◇医者の人材育成についてどう考えるか。

◆村立東海病院をどうにかしていきたいと思っている。東海病院は総合病院ではなく、かかりつけ医の類だ。総合的なことは村外の医療機関にお願いするにしても、一次的、二次的なところについては、村立東海病院で対応できるようにしたい。そこで皆さんの医療ニーズにこたえていきたい。

◇他のいろいろな所では、手術する前にきちんと対処しているようにきくが、（村立東海病院では）手術前提のようになっているので内容を充実してもらいたい。

◆いろいろ考え方があって、手術をしない選択肢もあるかもしれないが、今は医師が1人しかいない科目もあるので、まずは医師の確保をしていきたい。

### 【Bグループ】

◇原子力災害時の避難先で安眠できる環境を整備することが最重要だと思う。また、村の広域避難計画ガイドブックには、舟石川駅西二丁目、舟石川駅東一丁目から三丁目も記載されていないので明記してもらいたい。行政区名のみで、住所で記載されていないので、明記してほしい。

◆避難先の確保が最優先であり、避難所の面積も県の方針が変わったため、確保する必要がある。

避難生活までは考えが及ばなかった。避難先を確保して、レイアウトや生活のスタイル、生活の質を考えていきたい。ガイドブックやごみ収集もそうだが、行政区名でやっているものが住所ではないので、わかりづらい。皆さんが住んでいる住所と行政区のずれがあるので、住所も合わせて併記することで反映したい。

#### (個人と村長の対話)

◇東海村に初めて来た人に案内するならどこか。

◆「歴史と未来の交流館」なら歴史も自然も村の概要を説明できる。また、村松大神宮と村松山虚空蔵堂が並んでいるところや、八間道路も見せたい。村の原子力施設の集積した地帯と普通の街並みが、同じまちの中にある特殊性を、村の特徴として紹介したい。

◇「歴史と未来の交流館」の魅力はどこか。

◆「歴史と未来の交流館」は、東海村の歴史や自然を紹介し、東海村全体の成り立ちを説明できる場所。子ども達には学校教育を通じて施設の説明ができていますが、大人にはなかなか説明できていない。関心のない人をどのように「歴史と未来の交流館」に呼び込むかが課題だ。

◇介護医療職へコロナ対策へのコメントをお願いしたい。

◆本当に感謝している。感染症のパンデミックはまた起こると思う。村からの直接的な支援はあまりできなかったが、これからも現場で働いている人の声を聴いて対応していきたい。

◇東海村で原子力をブランド化するようなまちづくりができないか。

◆村では社会科学のための研究に助成しているが、人文系の研究が主になる。エネルギーが地産地消できるのは素晴らしいことだ。東海村は、原子力の問題を考えなければ、地域資源を活用し、スマートシティの実現が可能だと考えている。現状では、原子力を抱えていることで、ある意味卑屈になっている状況なので、住民の恩恵につながるがあると説明できるといい。アイデアとしてはいいと思う。

◇東海村は原子力発電所も火力発電所もあるが、熱エネルギーの恩恵を受けていない。もう少し排熱を利用し、地域熱供給などができないのか。企業に設備の要請等をお願いできないか。

◆原子力発電の再稼働を前提とした話を企業にはもちかけにくい。今は安全性を高める工事をしてるところだ。火力発電については、カーボンニュートラルにシフトしているので、アンモニアを入れて、できるだけ石炭を使わない発電を考えている。カーボンニュートラルの中で水素を作り出すなどの新しい産業の呼び込みや、単純な熱利用だけでなく、脱炭素に向けた取組にどうつなげていくかが大事だと思う。企業とは、長期的な視点で、村として意見交換していきたい。

#### 4. アンケート結果 (抜粋)

①タウンミーティングに参加して、満足度はいかがでしたか。

5 (満足)	4 (やや満足)	3 (ふつう)	2 (やや不満)	1 (不満)
4名	2名	0名	2名	0名

(自由記述欄)

- ・村長、村民の方と対話する機会があることは理解が深まると感じました。
- ・満足のいく発言ができなかった。
- ・このような機会を作っていただきありがとうございます。

- ・時間が圧倒的に足りない。リモート等も活用すべき。倍程度の時間は必要。

②タウンミーティングに参加した前後で、あなたの行政や地域への関心、参加意欲は変化がありましたか。

5 (高くなった)	4 (やや高くなった)	3 (変わらない)	2 (やや低くなった)	1 (低くなった)
5名	1名	2名	0名	0名

(自由記述欄)

- ・東海村を知る勉強となった。
- ・自分が住んでいる地域のことに関心を持つこと、まずは興味を持つことが大切だと感じました。
- ・これからも地域にプラスとなる様高い関心を持続していきたい。

